

## 第2回(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計 業務委託に係る公募型プロポーザル審査委員会 議事録

日時：令和6年8月24日（土）10:00～18:00

場所：仙台市役所本庁舎8階第2委員会室ほか

出席委員：青木淳委員長、岩間友希委員、富永祥子委員、西沢立衛委員、高橋新悦委員  
（高橋委員を除き五十音順）

出席オブザーバー：本江正茂氏、本杉省三氏、小口恵司氏

議事次第：1.開会

- 2.議事
  - (1) 最終審査対象者の選定
  - (2) 最終審査対象者への質問・指摘事項について
  - (3) 最終審査の進め方について
  - (4) その他

3.閉会

### 1. 開会

■5名の委員全員が出席しており、定足数を満たしていることを確認した。

### 2. 議事

#### (1) 最終審査対象者の選定

（審査対象の審議）

委員長：技術提案書等の提出状況について報告を求める。

事務局：一次審査の結果、参加表明書を提出した77者のうち、75者が二次審査対象者となった。二次審査対象者のうち、技術提案書等が提出期限内に到着した者は69者、提出期限後に技術提案書等が到着した者が1者（整理番号64番）、辞退届を提出した者が4者（整理番号14番、18番、46番、68番）、技術提案書等と辞退届いずれの提出もなかった者が1者（整理番号76番）である。整理番号64番、76番について、プロポーザル実施要領10（1）において「提出期限を過ぎて提出された場合は参加資格を失う」と規定しているため失格と考えるが、この取り扱いについて審議をお願いする。

委員長：この2者を失格とすることについて、質問、意見はあるか。

（発言なし）

委員長：それでは整理番号64番、76番については失格とする。

（審議の進め方の確認）

委員長：本日の審議の進め方について確認をしたい。

事務局：最初に第1委員会室にて技術提案書等を閲覧する時間を設ける。その後、オブザーバーに対する質問時間を設けている。先の閲覧時間中にオブザーバー等に確認した事項があれば、この時間で共有していただく。

その後、3回にわたり参考投票と意見交換を繰り返し、最終審査対象となる3者から5者を選んでいただく。参考投票の票数（1回目15票、2回目7票、3回目3票）や絞り込む件数（第1段階で30者程度、第2段階で10者程度、第3段階で3～5者）は事務局の暫定の案であり、審査の状況を見ながら、適宜審査委員会の協議で決めていただく。

最終審査対象者が決まった後は、最終審査対象者に示す質問・指摘事項について、1者当たり2、3問程度を想定し、審議いただく。最後に、9月8日に予定されている最終審査の進め方の確認を行う。

委員長：本日の進め方について、意見、質問はあるか。

（発言なし）

委員長：それでは予定通り進めることとする。技術提案書等について確認事項はあるか。

事務局：2点ある。1点目として、提出された技術提案書等の一部には、実施要領に記載した要件や留意事項を遵守していない可能性があるものがあるが、これについては提案者を10者程度に絞り込んだ段階で該当のものがあれば審議いただくこととしたい。

2点目として、実施方針の中で一部黒塗りになっている箇所があるが、これは提案者を特定できる可能性がある過去の設計事例や映り込みのある写真などであり、事務局で処理をしたものである。匿名性確保の観点から、黒塗り処理をした状態で審査をいただきたい。

委員長：この2点について意見、質問はあるか。

（発言なし）

委員長：2点の取扱いについて、提案の通り了解した。

（技術提案書等の閲覧）

■各委員は、第1委員会室に掲示した技術提案書・実施方針を全て閲覧した。

（オブザーバー等への質疑応答）

委員長：オブザーバー、事務局への質問応答の時間を取る。技術提案書等の閲覧時間に質問をされた方は、審査委員全員が共有するために改めて質問事項として挙げてもらいたい。

委員：地下をかなり深く掘って構造物を入れているもの、30mの高さ制限を超えているのではないかとと思われるものがあり、どのように考えるべきかをオブザーバーに質問した。設計者を選定するということであれば、あまり細かく考えなくて良いのではないかとということであった。

委員：とても開放的なプランがあったが、音響面・舞台設備面で、うまく落ち着くところがあり得るのかについてオブザーバーに確認をした。隣接する部屋同士の遮音は、全く無理というわけではないが難しいとの見解を得た。

委員：一般車両と搬入車両の入口が分けられておらず、かつ広場の利活用を前面に打ち出している提案について、動線の混乱が起きないかを質問した。また、地下に主要の施設が集約された場合、最近多い水害などに対するリスクがあるので

はないかという質問を事務局にした。

事務局：広瀬川の氾濫については高低差があるため問題がない。ゲリラ豪雨などの際、西側道路は浸水が想定される区域となっているので、その処理には気を付けなければならない。

委員長：改めて、オブザーバー、事務局への質問があれば提起されたい。

委員：大ホールの舞台が1階にあり、楽屋が3階に集約されている提案があったが、こういった案は成立するのか。

オブザーバー：実際に例がないわけではないが、舞台のレベルから遠くなると、エレベーター、エスカレーターを使わなければならない、運用上不利になる。絶対に無理ではないが、避けるべきである。提案のままでは難しくても、改善ができれば良いので、改善ができるかどうか問題となる。

委員：大きな考え方を見て、細かいところは後で調整できると思うことはあるが、案の根本を変更しないと駄目という提案はあるか。

オブザーバー：今回、どの案もこのまま素直に基本設計に進めるというレベルにはないと思う。提案されている構想の中心となっている部分を変更せずにできるかどうか問題となる。これだけの複雑な施設を設計する能力がある人物かどうかを、図面や提案から判断できるということはあると思う。

オブザーバー：ホールの天井の高さは重要な要素だが、それをどのくらい重要に考えているのかが見えにくいものはある。大体の提案ではホールは地下鉄から離れているので、遮音の問題は今後の調整で何とかかなと思う。

オブザーバー：震災メモリアルの視点では、これだと成立しないという提案はない。そこで活動して何かを創っていくという活動イメージが希薄で、ただ展示を見て帰る施設のようにイメージしているものが見受けられた。

委員長：今の意見を総合すると、提案のどれもそのまま基本設計に進めるという訳ではなく、色々な問題もある。だが、設計者の基本的な姿勢、コンセプトを守ったうえで直せるものなのかということは、今後の一個一個の審議のなかで考えていった方が良さだろう、ということの良いか。

オブザーバー：1つだけ具体的に言うと、例えばホールの形が円い、リハーサル室が三角形だといったように形にこだわっているものは、根本的な理解に欠け、変更してくれる可能性が低いのかなという印象はある。

#### ①第1段階絞り込み

委員長：投票とその結果を踏まえた意見交換により提案を絞り込みたい。各委員15票を投票し、おおむね30者程度に絞り込むという進め方で良いか。

委員：15票を目標にしない方がいい。面白いと思った作品が少ないこともあるので、幅を持たせた方がいい。15票でやると、1票が多く出てくる気がする。最大15票ということにしてはどうか。

委員長：それでは、投票数は下限を定めず最大15票ということにする。その代わり、1票でも入ったものについては丁寧に議論をしていくこととする。

■第1回参考投票を行い、結果は以下のとおりとなった。

得票数	整理番号	提案者数
0票	1, 3, 4, 8, 12, 17, 19, 23, 28, 32, 37, 39, 40, 41, 43, 44, 48, 49, 51, 52, 53, 54, 56, 57, 59, 60, 62, 65, 70, 72, 74, 77	32者
1票	5, 7, 10, 13, 16, 21, 22, 25, 27, 31, 33, 34, 38, 42, 50, 55, 58, 69, 73, 75	20者
2票	2, 6, 9, 11, 15, 29, 30, 35, 36, 45, 61, 66, 67	13者
3票	20, 24, 47, 63	4者

委員長：1票を獲得した提案者について、票を投じた委員からコメントをいただきたい。

◆5番

◎広瀬川を建物の正面とした配置、防災対策についての記載、仙台型のワークショップの提案など、地域特性を把握した提案であることを評価した。

◆7番

◎「居久根」をイメージした計画、まちづくりと新しいコミュニティ形成など仙台の地域性を意識している点を評価した。

◆10番

◎地下を活用して、低層化を図っている案の一つで、敷地周辺が一番低く、段々状に高くなっていく。ボリュームを低減しようとしている点を評価した。

◆13番

◎メモリアルはメモリアル、音楽は音楽といったように各機能を分断させない配置、色々な活動を眺められ、用事がない時も遊びに行こうと思える提案であるところを評価した。

◆16番

◎ホールを中心に置き、周りを周回できるようにし、広瀬川側にメモリアル関係の部屋を設け、周回する中に位置付けるという意図が明確だった。

◆21番

◎楕円形をモチーフとし、3つの輪のイメージを持って全体を構成している。立地環境に合ったデザインと思われ、評価した。

◆22番

◎コンセプトが面白く、メモリアルボイドの機能など提案内容についてもっと聞きたいと思った。また、他のメモリアル施設との関係も考えており評価をした。

◆25番

◎表裏をどうつなぐかというところはポイントとして見たい。この提案は、表動線と裏動線の境目あたりにフレキシブルに使える諸室を置いて、表の空間と裏方空間がうまくつながり、変化をする仕組みがある。外観も特殊で、こういう

風景もありだと考えて、評価した。

◆27番

◎部屋の機能を点在させて大きなパブリックスペースでつなぐ提案が多い中、これは一つ一つの部屋を区切り、囲っているところに特徴がある。クワイエットスペースを他の空間と等価に扱っている点も特徴的であり、評価した。

◆31番

◎切妻の大屋根、雄勝石の利用、8の字状の動線計画などオリジナル性があり、市民と並走するという設計プロセスも評価した。

◆33番

◎背中合わせに大小ホールを配し、その周りに公共空間を配置し、山とまちを一望できる回廊を造っている。緑が多い外観になっていて構成が面白い。

◆34番

◎不明な点も多いが、地下のアーカイブライブラリーから1階のメインのロビーの辺りまでダイナミックに連続する空間が特徴的であり、評価をしたが、表裏のシームレスなつながりや西側のファサードがどうなっているのか気になった。

◆38番

◎メモリアル機能と音楽の機能がゾーンで分かれるが、自由に使える広めの空間を取り、つなぐような活動が生まれそうなところを評価した。

◆42番

◎屋根を使った地形をつくるということは、一つのあり得る答えであると思った。

◆50番

◎シンプルな構造であり、外観イメージも悪くない。大ホールの拡張的なモードチェンジの提案があり、設計の進め方も具体的に提案されている。

◆55番

◎仙台という地域特性の理解が大変高く、周辺の施設・環境もよく捉えている。

◆58番

◎設計の理念と考え方が明快で、他にないニュアンスの提案。用事がない時には人が来ないようにも思えるが、空いたスペースを生かして色々な使い方をできそうである。

◆69番

◎仙台の状況をよく理解しており、設計プロセスも仙台らしい進め方を提案している。8の字の動線計画が明確でわかり易い。

◆73番

◎メモリアル機能と音楽の機能がシームレスに入り交じることが感じ取られた。クワイエットスペースや交流ロビーのあり方も評価できる。

◆75番

◎広瀬川に面して色々な空間があり、スロープを使って立体的に人が行き来でき、活動できる空間となっている部分が魅力的であり、評価をした。

委員長：2票獲得した提案者について、投じた委員のコメントをいただきたい。

◆2番

- ◎色々な部屋が細胞のように入れ違いに配置されており、接点を多くしようという意図だと思うが、踏み込んだ話を聞いてみたい。
- ◎駅から臨んだ時に、ハコではなく、機能が緩やかにつながる場であるように感じ、用事が無くても行ってみようと思えるのではないかと、評価した。

◆6番

- ◎川沿いに賑わい空間を造る案の中の一つである。川側を低くして徐々に高くしていくことで、地形の起伏に調和させようとしている。明快な構成であり、評価した。
- ◎震災メモリアルを上層部に設ける提案が多い中で、手前の方に配置している。交流イベントロビーも広く、それが活動の余地になると思えるが、道路側から見たときに、大きな壁になるのではないかと言う点が気になった。

◆9番

- ◎クワイエットパスの存在によって、日常と非日常が隣接しており、面白い構成となっている。デザイン自体は検討の余地があるが、大ホールと小ホールの間にある大きな空間が日常的な活動の場として、工房やリハーサル室といったフレキシブルな部屋を取り入れているという構成が明快。
- ◎クワイエットパスを通り、緩やかに高低差も感じながら、両機能が入り交じっていくことが感じられて評価した。

◆11番

- ◎壁やドアの想定など分からないことも多いが、コロッセオのように中心に音楽や演劇があり、その周りに人の輪ができる、それを建築として実現しようとしていて、評価した。
- ◎チャレンジングであるが、丁寧なコンセプト設計に基づいており、これまで見たことがない、世界からも注目される建物になると思い、評価した。

◆15番

- ◎緑でつながる回遊性や誰もが楽しめる施設という点が仙台のイメージに合っている。仙台が防災環境都市であることについての理解、自然の回遊性と震災メモリアルを結ぶことを評価した。
- ◎震災メモリアルの常設展示ができる部屋が多く点在して配置されていることが、市民活動の余地になり得ると感じられ評価した。

◆29番

- ◎震災のための空間を、おわん型の大きな地形として用意し、その内側にホールを置くもので、かなり印象的な空間になると思われ、評価した。
- ◎大・小ホールのボリュームを低層で露出させていて、景観に配慮した低さがあって好ましい。このすり鉢状の空間に地下と地上の両方からのアプローチを造ろうとしているところが巧みさを感じる。

◆30番

- ◎広瀬川の方から見ると、屋上の空間に向かって段々で上がっていくという構成

をしていて、一つ一つの段が中の空間ともつながっている。また、1階に3方向に抜ける広場のような場所があり、魅力的な空間になりそうである。

◎道路、駅、川のどの方向にも背を向けず、うまく周辺に配慮している。3つの機能を独立させながらもつなげ、建物内の回遊性も持たせている。有機的な形でありながら四角い建物になっていて、スパッと線を入れている。感覚の鋭さを感じる。

◆35番

◎地上と地下に、二重の大空間があるのが独特である。地下1階は色々詰め込んでありながら、使い方によっては裏の方まで回遊できるような自由度の高い平面になっている点を評価した。

◎駅を出た瞬間にワンスロープでという構成がわかり易く、回遊しやすい点、地上部で緑が多く確保できるのではないかといった点を評価した。

◆36番

◎アゴラと呼ばれている機能ごとにまとまりのある空間を集合させて全体を構成している。機能ごとの関係性を研究しながら設計していく姿勢を評価した。

◎部屋のような囲まれた空間を連結させている点は他にあまりない提案である。練習や発表をしたい際に選べる場所が多数あるところを評価した。

◆45番

◎ロビー空間でつながりを造っているが、かなり起伏をもった不思議なつながりになっており、多様な空間が造り出されると思い評価した。

◎高低差を含めて、音楽ホールとメモリアルの融合の部分をバランスよく表現している。仙台についても、的確な把握をなされていると思われ、評価した。

◆61番

◎動線が混乱しないかなど気になる点もあるが、周辺施設との連携などを含め、明確なコンセプトを感じられる点を評価した。

◎地域や市民協働を強く意識した基本コンセプトとなっている。図面ではうまく表現されていないところもあるが、可能性が高いと思い、評価した。

◆66番

◎「柱、栈敷、道」の3つの言語で全ての機能に応える、劇場性を全体に、場合によっては外の空間にまで広げていく可能性を感じた。

◎多様な場所をつくる時、何にでも使えるのではなく、あるフレームをしっかり造り、その中での組み合わせ、選択肢の多さで多様性を生む点を評価した。

◆67番

◎駅だけではなく全方向から人が入ることができ、活動のゾーンが散りばめられ、用事が無くても訪れることができそうなこと、景観への配慮等を評価した。

◎地下に食い込んでいくという課題はあるが、景観への配慮ということで高さを20mに抑えるといった景観への強い意識をもっていることを評価した。

委員長：3票獲得した提案者について、投じた委員からコメントをお願いする。

◆20番

- ◎建物を地形にするという提案はいくつかあるが、全部覆ってしまうのではなく、ところどころ切れ目があり、そこで中と外をつなぐという案で、丘そのものが特徴となると思われ、評価した。
- ◎外観として開放感があること、また、中は中で第二の地形をつくって、地下鉄駅から大ホールの席まで徐々に地面を上げていく構成になっていることが面白い。詳細な検討を要すると感じながらも、評価した。
- ◎コンセプトが新鮮であり、見た目は丘だが、中には機能が詰まり、多様な活動が繋がっていくことが実現できそうな案であり、評価した。

◆24番

- ◎ホールを背中合わせに中心に配置し、外周を回遊できるようにしている。ホールを使わない時にその部分をどれだけ使える空間にできるかが重要。
- ◎背中合わせで大・小ホールを中心に置いて、公共空間をその周りに回廊的に巡らせて、周辺の風景を感じられるようにする提案であり、評価した。
- ◎楽屋の配置など今後調整すべき点はあるが、形として円を美しく使いながらまとめているところに力量を感じた。

◆47番

- ◎広瀬川側に向けてスロープで上下移動でき、小さな広場があり、上層部に練習室を配置するなど、展望空間をうまく利用しようとしている姿勢を評価した。
- ◎大ホールと小ホールの間にはリハーサル室を配置し、連携利用しようという意図が明確。また、その周辺に一般の人も入れ、色々な活動が展開・集成されていくことが担保されており、バランスのよさと明快さを評価した。
- ◎災害文化と音楽ということを強く意識した提案である点を評価した。

◆63番

- ◎震災関係のものを屋上に配置しているのだが、鎮魂などを意味する丘ということで、一番上が一番良い場所という造り方になっている。中の空間がこれで行くのか、裏側から見たときに絶壁ではないかという疑問もある。
- ◎単に丘をつくるだけではなく、一番上の部分にメモリアルの部屋をつくったこと、斜面の途中で小ホールなどへの入口を設けたことが面白い。
- ◎業務やその背景の理解に不安はあるが、頂上にあるメモリアル機能にきちんと道でつなげて、自然に誘導されるようなつくりを評価した。

委員長：票が入った全ての提案についてコメントをいただいた。

1票以上入っている提案が37あり、無理に30まで絞り込む必要はないが、この段階で落としても良いというものがあれば言ってもらいたい。

- 「一定の評価はしたものの、他の委員の評価が得られていないのであれば次の段階に残さなくてよい」等と考える提案について、票を投じた委員から申し出を受けた。それを受け、委員全員に確認のうえ、1票獲得の提案のうち7番、21番、31番、34番、42番、58番、75番は次の段階に残さないことを決定した。この結果、以下の



30者が次の段階へと進むことになった。

次の段階に進む提案者の整理番号
2, 5, 6, 9, 10, 11, 13, 15, 16, 20, 22, 24, 25, 27, 29, 30, 33, 35, 36, 38, 45, 47, 50, 55, 61, 63, 66, 67, 69, 73

②第2段階絞り込み

委員長：30者から10者程度に絞り込むための審議を行う。先程と同様、最初に参考投票を行うが、今回は1人あたり最大7票を投じることとしたい。何か意見はあるか。  
(発言なし)

委員長：しばらく時間を取るなので、提案内容を改めて確認のうえ7票以内で投票いただきたい。

■第2回参考投票を行い、結果は以下のとおりとなった。

得票数	整理番号	提案者数
0票	5, 13, 16, 22, 35, 38, 45, 55, 63, 69, 73	11者
1票	2, 6, 9, 10, 25, 27, 33, 50, 61, 66, 67	11者
2票	11, 24, 36	3者
3票	15, 29, 47	3者
4票	20, 30	2者

委員長：次の審査段階に残す10者を決める議論に入る。

0票のものについては普通にいくとこの段階で終わりになると思うが、2票以上獲得が8者なので、1票獲得の11者のなかから2者を選定して加えることは可能である。1票獲得の提案は残さないで8者のみ通過させることもあり得るが、1票獲得の提案について、投票した委員から応援、あるいは残らなくとも仕方ないといったコメントをもらえればと思う。

◆2番

◎どうしても残すべきという程ではない。

◆6番

◎全体的に表現が弱く、道路側など、どうなっているか分かりにくい所がある。

◆9番

◎クワイエットパスというかなり踏み込んだ提案が他にない特徴であり、再度評価したい。一方、真ん中のゾーンが込みいった配置になっているが、どういう

使われ方がなされるか、意図が若干分かりづらい。

◆10番

◎残さなくて良い。

◆25番

◎姿は良いが、そこまで残すほどでもない。

◆27番

◎ガラスのようなものでパッケージ化しているのは面白いと感じたが、実際にできるところまではすっきりせず、閉鎖的になってしまうように懸念もしたので、残さなくて良い。

◆33番

◎面白いとは思いますが、配置が一本道で相互交流がないような感じもするので、残さなくて良い。

◆50番

◎わかり易い配置の箱物状の提案の中では、比較的開放感がある。メモリアルステージが手前に位置しておざなりにならなそうであり、どちらかと言えば応援したい。

◆61番

◎設計の理念から、仙台をよく知っているということがしみじみと感じられる。比較的残してもらいたいと思う提案である。

◆66番

◎様々な高低差がある活動スペースがあることで、メモリアルの活動などが可視化されそうだという印象はあるが、無理に残したいというものではない。

◆67番

◎形、動線、緑が豊富なことなど良い要素があり、理念もしっかり記載されているが、残らないとなってもやむなしと思う。

委員長：以上の議論を踏まえ、2票以上獲得の8者に、1票獲得のうち9番、50番、61番を加えた11者を、次の段階に残すこととしたい。

次の段階に進む提案者の整理番号
9, 11, 15, 20, 24, 29, 30, 36, 47, 50, 61

(要件・留意事項不適合の確認)

委員長：この11者について要件・留意事項への不適合がないかどうか確認をする。

事務局：不適合の可能性のあるものが4件あったので審議いただきたい。

(36番)

・実施方針に使われている写真について、写っている人物から提案者を特定できる

可能性があるため、事務局側で黒塗り処理をした。

(47番)

・技術提案書におけるイメージ図に縮尺表示がない。

(50番)

・36番と同様の理由で、実施方針に使われていた写真の黒塗り処理をした。  
・技術提案書にクワイエットスペースのイメージの記載がない。  
・技術提案書においてリハーサル室のある階層の平面イメージ図は600分の1の縮尺とすべきところ、1,000分の1の縮尺となっている。

(61番)

・技術提案書において、災害文化創造支援・発信エリアを含む階の平面イメージ図が無い。ただし、地下1階に市民活動エリアという記載があるので、それが該当する可能性はある。

委員長：順に確認をする。

36番については、もしかしたら提案者が判断できるかもしれないので黒塗りにしたとのことで、問題ないと思われるがいかがか。

(委員了承)

委員長：47番については、明記はないものの600分の1で描いているように見える。

委員：右下にスケールバーがある。

(スケールバーをもとに、縮尺が600分の1であることを確認)

委員長：これも問題ないということで良いか。

(委員了承)

委員長：50番については3点あり、写真の問題は36番と同様に問題ないと思われる。リハーサル室のあるフロアの平面イメージが表示すべき縮尺で表示されていない点については、違反ではあるが、軽微なことの範疇に入るのではないかと。クワイエットスペースのイメージパースが記載されていないことについては、どちらかと言えば提案者側にマイナスに働くものであると思われるが、いかがか。

委員：設計者の側に立って考えれば、大目に見ても良いのではないかと。

委員長：61番についてはどうか。中心部震災メモリアル拠点というキャプションのついたパースはあるが。

事務局：パースはあるが、展示室など、メモリアル拠点に属する諸室の記載が平面イメージ図中になく見受けられるということである。

委員長：そのことが審査においてプラスに働いているということはないので、問題視しなくても良いのではないかと考えるがいかがか。

(委員了承)

委員長：それでは4件とも、要件・留意事項不適合による落選とはしないこととする。

(オブザーバー見解)

委員長：11者に絞られたこの段階で、各オブザーバーの専門領域から見て、提案について技術的な問題、課題等あればコメントをお願いします。

オブザーバー：震災メモリアルの部分では、大きな問題がある提案はない。

オブザーバー：実施方針で4つ、技術提案書で4つの評価軸が実施要領に示されている。

特に、みんなの場所であり誰でもアクセスできるという視点から、車椅子やベビーカー、身体の不自由な人などでも自由に動き回れることが大事。

また、動線というのは非常に大きな要素であり建築家の考え方が現れる。本事業の理解度は一番大事なことの1つであり、この施設をつくる目的、基本構想や基本計画に書かれていることをどの程度理解しているのかということ念頭に置いて審査してもらいたい。

オブザーバー：音響面からは、どれも大変そうだと思うが、解決策がないと思われる提案はなく、進めていただいて良い。

委員長：評価の視点に立ち返ってという喚起があったので、この後の審議のところでは、そのあたりをもういちど確認しながら審議を進めたい。

### ③第3段階の絞り込み

委員長：最終審査対象者として3者から5者を選定する審議に入る。現在の11者に対して1人それぞれ3票ずつ投じていただく想定であるが、コメントについては11者全てについていただきたい。

委員：投票の前に11者全てについてレビューする方が良いのではないか。

委員長：では投票の前に、提案に対する評価点・疑問点などを各委員に述べていただきたい。提案の整理番号順に聞いていく。

#### ◆9番

○クワイエットパスは、クワイエットスペースを道として造り、そこを通り抜けるという面白いアイデアであると評価するが、そこに面して日常的な部屋が配置されており、普通の廊下になってしまわないかと懸念される。なによりも全体の大きな思想、どのような秩序を与えるのかといった考えがよくわからなかった。

○クワイエットパスについての課題は、今後調整で改善できるものと思われる。日常的な市民の活動の場について、大ホールと小ホールの中のゾーンにかなり一体的な段々の空間を設定しているのは面白いと評価した。ただ、ここに配置されている部屋の意味、機能連携や使い方について提案が弱いと感じている。

○クワイエットパスというコンセプトが面白いと思う。しかし、全体的なイメージが静謐で厳かな感じになりそうだと感じており、仙台の過去と今と未来をつなぐという役割を果たせるか疑問に思った。仙台防災枠組だと「ビルド・バック・ベター」などエネルギーな言葉を大切にしているので、コンセプトが相反するよう感じた。

○凶面の第一印象がすごく暗かった。音楽ホールと震災メモリアルとの融合という点でどうか。クワイエットパスだけで各部屋をつなぐというのは、動線として十分か。

○クワイエットパスが一番の特徴と思う。それが地下1階に割れ目みたいに入っ

ていくが、その割れ目でメモリアル拠点を包み込む形になっており、プランニングとしてはなるほどと思う部分はある。ただ、足元にそのような空間があることで未来との関係よりも、あのとき怖かったという記憶が強く出るのでとは懸念する。また、このパスを造ったことが全体の構成に影響を与えるには至っていない。

#### ◆11番

- ◎初めて見たときはすごいと感じたが、具体に見ていくと理解できなくなって、この先どういう形になってくるのか分からない。でも、発想としては、ほかにはない見方をしていることは認める。
- ◎大変面白い案だなと思っている。世界的な目線で見たら、学会で来られる方がつい足を運ぶような面白さはある。ただ、現場運営はすごく大変になるのではないか。サイン計画などをよほど丁寧にやらないと高齢者や車椅子の方が困るのではないかなというような、理想と現実のギャップが生まれそうだと思う。
- ◎インパクトのある提案だと思うが、このような形状を採用したときに、ホールとしてのクオリティを担保するのは難しそうに思う。今回の施設では、市民もプロも、クオリティの高いホールを求める気持ちが強いとっていて、それを担保する要素があればよかったのだが。アイデアは面白いが、ちょっと違うかなと個人的には思う。あと、場所がなんだかんだで均質な感じになってしまうのではないかなとも思われる。
- ◎評価している案の1つである。技術提案書に2つの図式が書いてあって、まずは1つの中心があって、音楽ホール・震災メモリアルという分割を潜在的に超えようとする人の集まりというものを提示している。一方で、個々の活動が端の方で結びついて幾つかの中心ができるという、一中心性とは違う多中心的な世界というのも同時に実現しようとしていて、そうしたことが空間個性としてダイレクトに現れている。どうやって仕切るのか、動線をどうするのかといった実際の問題はあるのだが、壁を入れるかガラスを入れるのかというようなことを超えて、空間の構造体のありようとして今回のプロポーザルにストレートに応えている。両者をつなぐ、もしくは両者を超える一つの中心というものをつくる生命力のようなものを感じる。
- ◎いわゆるホール建築のタイポロジーから大分離れているところから出発して、災害文化というものを考え、まちが発する新しいタイポロジーをつくらうという意気込みが感じられる。一方で、これを現実化していくときに、閉じた部分と開いた部分のバランスをどのようにとっていくかなど、相当色々な整理が必要となる。そのことによってコンセプトは変わらないとしても、空間性が相当変わってくるだろうと思われ、それをどう評価するかが肝だと思う。

#### ◆15番

- ◎外観として3つの筒の部分があまりにも強く、これをどう捉えるかというところがある。ただ、クワイエットスペースやメモリアル展示を点在させることによって人を回遊させる意図というのは納得できるところがある。また、筒がホールの中に一部突っ込んでいき、その中からホールの一部が見える不思議な構成

になっていて、筒を付け足しの空間にしないように積極的な提案をしているところが面白いと思う。一方、一般の人が日常使う部屋のゾーンが上階にあり、4階くらいまで階段で上っていくようになっていて、もちろんエレベーターもあるだろうし、あえて上に置くことで人を登らせるという意図があるのかもしれないが、実際のことを考えるとそうする必要があったのか疑問に思うところもある。

- ◎回遊性という点では可能性がありそうだと評価しているが、本当に思惑どおり人が流れるか、グラウンドレベルで歩く目線でイメージしてみると、意外と上のほうの部屋には行かないのではないかと思う。
- ◎仙台について、特に緑、回遊性、防災環境都市などについてよく理解している。周辺の緑地や山とマッチングしそうなデザインや配色で、維持管理上は大変かもしれないが、遠景としては素晴らしいと評価している。
- ◎プランにリアリティーがある。色々なところから入れるようになっていて、流れに沿って奥にホールがあって、分かりやすく好感が持てる。川側から見た風景は良いのだが、別の外観パース図を見ると、少々都会的過ぎるというか、印刷上のことなのかもしれないが黄色や赤も使われていて商業建築的なムードも感じる。それと震災メモリアルとがどのように調和するのか心配がある。
- ◎プラスの意見とマイナスの意見がある提案だと思う。マイナス面から言うと商業的な感じ、あるいはモダン、都市的といった指摘ができる。外観だけでなく、ロビー空間のパースなど全体のデザインのトーンからも気になるところである。一方でよく考えられているのは確かで、上に向かってだんだん上っていくルートがあり、そこにどんなものがあり、どんなことが起きてということが丁寧に計画されている。縦方向の動線の導入と、平面的にホールとして解かなければいけない課題を両立させていて、設計能力としては非常に高いといえる。仙台が求めていることにもよく応えられている。

#### ◆20番

- ◎何だこれはという驚きがある。青葉山の景観にマッチしながら、用事がないときでも子供でも遊びに来られるということ、地下の方で活動が生まれるということで、多様な背景を持つ人が無理なく空間に飛び込んでいけると感じる。一方で、緑の部分の維持管理については懸念がある。
- ◎緑の丘という感じは良いが、遠目で見るとゴルフ場のフェアウエーかとも思え、マッチしているようでマッチしていないのではと思う。また、内観で言うと、上から下へ柱状のものが配されているが、使う側としてはあのようなものが入ると使い勝手の面でかなり厳しいという印象である。
- ◎いいなと思うところと、疑問を感じるところの両面がある。地下鉄と接続できないとなったときに、地下の一番深い部分が壁で終わるようになってしまうと、動線に無理があるということになるのではないか。平面的にはここが音楽ホール、ここが震災メモリアルとゾーニングをして別々に建てるのではなく、一つのランドスケープの上にみんながいるという感覚は大変評価できる。
- ◎全体として評価をしているが、内部空間に関して引っ掛かるところがある。楕

円形の部屋が点在し、その周りにフリースペースを配するという構成で、イメージ図では人がたくさん描いてあるが本当にそういうところで活動が起きるのか。囲われた部屋と全くフリーのところとの中間ゾーンのようなものが必要なのではないかと思う。

◎丘を造るという提案であり、中の空間もランドスケープとして考えられていることが特徴である。楕円形の部屋については、裏方の空間がなく、全部が表側に出てくる空間になっているが、それでは解決できない部分もあるのではないか。地下で駅とつなぐのは実現がかなり難しく、それが駄目だったときに構成をうまく成立させるのはハードルが高いと思われる。

#### ◆24番

◎大ホールと小ホールが背合わせであり、連結しても使えるといった提案になっている。コンパクトな作り込みであり、動線も建物の中はシンプルで分かりやすい。建物自体が丸みを帯びて柔らかい感じである点など優れていると思う。

◎ボリュームとして巨大になるホールの周りに、中間領域をつくり、ボリュームの圧迫感を下げている。同時にテラスと公共空間が周りにできるので、外観が殺風景な壁ではなく、人々の活動とか木々を感じさせる外観になりそうな気がしている。ただ、全体の形など分からないこともあり、もう少し多角的に見てみたい。動線がホールの周りをぐるっと回ることになるが、それで人々の出会い、交流が生まれるのか読み切れていないところがある。

◎ホワイエが薄くなっているが、東西に分けてホワイエやラウンジを取る考え方も十分あると思った。北側に、唯一丸ではない四角いボリュームの部分があり、ここに市民活動の空間であったり楽屋であったりが詰め込まれているという印象を受ける。その部分について提案が欲しいところである。

◎動線として思惑どおりに人が流れるか、交流は起きるか、実際の利用になると廊下が人でいっぱいになるといったことが起きないか気になる。また、震災メモリアル機能が駅側から遠い奥にあるので、行き着けないようなことが起きないか懸念がある。

◎真ん中にホールの舞台を2つ並べると構造的にも一番硬い箱が真ん中に来るので非常に合理的ではある。周りに色々柔らかい空間、活動ができる空間を配置できるという点でも合理的なプランであり、北側にもう1か所色々な部屋を造れる場所を用意したというのは上手な造り方かなと思う。一方で、円形部分は回遊が目的なのか、それとも三々五々座ったり、集まったりする交流の場をイメージしているのか、この空間をどう育てていくのかが見えていないのが弱い部分だと感じる。

#### ◆29番

◎震災メモリアルについては理解度が高く、考え方をしっかり持っている提案だと思った。反面、地下を深く掘るプランであることには懸念もある。それを除けば、分かりやすい造りの計画であり、クワイエットスペースについても、深く考えていると感じる。

- ◎評価している案の一つである。ちょっと深く掘ることの是非はあるが、低層に抑えることと大きいボリュームのバランスをこの提案者はうまく処理できる気がする。応募書類を一つの作品として作っていて、1つ1つの絵を、要求されたからではなく描きたくて描いたという感じがして、他から突出した特徴といえる。すり鉢状の空間も非常に独特で詩的なイメージがあり、印象深い。課題としては、地下に下がる、暗がりに入っていくというイメージが、メモリアル拠点としてどうなのかということ。また、バリアフリーの点では、2次曲面ならまだ良いのだが、X・Y両方にカーブするすり鉢状の3次曲面だとすると車椅子での移動がかなり大変であり、提案者の世界観とバリアフリー対応に折り合いをつけられるのか懸念がある。
- ◎大きくすり鉢状のイメージ図が描いてあり、左半分（駅側）は確かにすり鉢であるが、右半分（北側）の構造が良くわからない。そこに小ホールが別物のように置かれている。小ホールをどう位置付けているのかよくわからない。表現自体はとても面白いし、独自のものがあると思う。
- ◎地盤調査の結果を確認すると、川側は5m程度盛土があるが、道路側は数mで地盤が出てくる。その地盤は玄武岩ではなくて砂礫か砂岩で、砂岩であればハンマーの軽打で碎ける程度とあるので、非常に大変なところとまでは言えないと思われる。また、スロープの広場は平らになっているが平らに見えないような方法もあるので、バリアフリーを対応しながらすり鉢型の提案というのも技術的には対策が取ることができるとは思われる。

#### ◆30番

- ◎表と裏、こっちはプロでこっちは市民といった分割をせずに、全部を市民が使い得る、もしくは全部をプロが使い得るという、切り分けをやめた感覚が読み取れる。潜在的に何かデモクラシー的な魅力を感じている。中と外の連続性についても期待を持って見ているので、実際の模型を見てみたい感じがある。
- ◎白塗りの部分が四方に抜けられる抜け道がある吹き抜け空間であり、灰色塗りの部分が各部屋の周囲で天井が低い部分と示されている。こういった表現の仕方は上手であると思う。
- ◎表も裏もないコンセプトで、景観上也合っていて、素敵だと思う。動線も開放感を持ちながら人が入り混じれそうな配置になっていて評価している。
- ◎細かな部屋やホールを屋内に分散配置をしてブリッジのようにつなぐというのは珍しいものだと思うので、実際に模型で見られるのであれば見てみたいと思う。
- ◎パースで見る全景に関しては、造形ができている感じではある。この提案はプランニングの挑戦もあり、それが、やるべきことの一つの答えとなっていると思う。

#### ◆36番

- ◎アゴラという名称の空間をたくさん造り、それを連結させている。派手ではないが、これを徹底してチャレンジしているのは評価できる。ただ、アゴラに面して扉がいっぱい並んでいる状態なので、そのアゴラに接している面の造り方



は考えないといけないと思う。屋根もどようになっているか確認が必要に思う。

- ◎このアゴラをたくさん配置するという考えは、面白いと感じている。ただ、同じ属性の人同士は部屋の前で溜まって交流するであろうが、違う属性の人同士が入り混じり、違う価値観に気づくようなアゴラになっていくのが重要であり、気になる。
- ◎実施方針の理念的な部分と技術提案書とがあまり符合していないと感じられた。
- ◎表だけではなく、ぎゅうぎゅう詰めに詰め込みになりがちな裏の機能空間にまでリビング空間を提案していて、こうしたアゴラのアイデアで全体を組織化するの面白いと思う。一方、裏の方でアゴラを強引に吹き抜け空間として造っていて、かえってうまくいなくなっている場所があるように見える。もう少し時間をかけて検討するともっと良いプランが出てくるだろうと思う。
- ◎いわゆるホワイエロビーのような大空間でみると、ホール建築は閉じていることが多い。それならば、空虚な空間にならないように小割にして、色々な良いスペースにして、それを連結したほうが賢いのではないかといった発想と思う。これまでの考え方を変えた発想で、このような発想が出てくることはよく分かるし、それにトライしているところがプラスに評価できる。一方で、平土間アゴラと言っているロビーのところは、どうしても大きさが必要になるので、そこを無理やり分割可能な平土間にするという無理をしているようなところがあり、アイデアや方法は良いのだが全て解決しきれていないとまでは言えないと思う。

#### ◆47番

- ◎高さが結構あるのと丸いフォルムでもないので、国際センター駅から見たときに迫ってくるような圧迫感がありそうで、あまり魅かれない。
- ◎応募にあたってかなり勉強されたと思われる。周辺の緑との関係や中の部屋の配置などもうまく処理されているのではないかと。特に、災害文化の視点を4項目挙げて概念的であるが記載されている。災害文化を意識して音楽ホールとの複合をやってくれるのではないかと受け止めている。
- ◎構成としてはすごくよくできていて、ホワイエを川側にとってホール部分を並列させてうまくまとめている。一方、他の案に比べてボリュームが大きいのではないかとと思われる。また外見を有機的な形にして多方向的になっているように見えるが、道路側からは壁を見るようなことになっていないか、技術提案書だけでは分からないので気になった。
- ◎構成が明確で、肝の一つとなるリハーサル室とか練習室の部分も連携利用がしやすいそうだと思う。確かにボリュームがかなり大きいと思われるが、今後調整はできそうだと思う。ホールのクオリティー、市民活動の場としてのクオリティーの両方が揃っていると感じている。
- ◎この案の良さは、要求事項についての理解度が高いことである。それら全部に対して応えようとしているので、ボリュームが大きいと感じるのだと思う。全体のバランスをうまく取っていけるかが課題であるが、よく解けた、よくでき

た案であることは間違いない。

◆50番

- ◎設計の体制についてはよく考えられていて、地元も巻き込んだ形で進める点は評価をしている。
- ◎大きく重いものを中心に置き、小さい活動の部屋を周りに配置することで、どの部屋も明るく、快適な部屋群が造られているような気はする。回遊性があるのも良いと思う。
- ◎提案はうまくまとめられていると思う。小部屋の部分がちりばめられているインナーストリートは楽しそうに見えるが、何か他の空間と組み合わせで違った使い方ができるというところまで示されるとよかったと思う。
- ◎オーソドックスであり、来館者が混乱せずに活動に溶け込んでいけそうな安心感がある。また、大きい吹き抜けがあることで開放感があり、震災メモリアルについても暗い気持ちではなく災害文化に触れられる場が生み出せると思う。
- ◎プランニングで見ると非常にシンプルだが、空間としてはかなり大ぶりであり、それが安心感を与えるかもしれない。また、地元の人との協働を考えていることはプラスに評価できる。

◆61番

- ◎部屋を独立分散してランドスケープ的な配置にしているのが面白い。これらとスロープとの関係が分かりにくい、ブースが並んでいる上に隆起する地形があるといった想定であろうか。独立したブースが地下室なのか、採光や雰囲気はどうなっているのかが気になるところである。
- ◎地下で箱状に並んでいるものと、上の地層のような空間とは、別々のもののように見える。箱を並べた間の空間に人をたくさん描いているが、実際はどういう風に使えるのか、本当に使えるのかが分からない。パースは良い感じで描いてあるが、実際にそのような空間ができるのか確信が持てない。
- ◎この提案者は、地元のことを知り尽くしていて、任せろという姿勢が全面から伝わってきている。体制には安心感があるが、色々なところから意見を募るところには弱さが出るかもしれない。技術提案書に関しては、今風の賑わいは生まれそうであるが、年配の方も想定される音楽ホールに適しているのか、あるいは、ウォークアブルな雰囲気が出ているが実際は車も入ってくるのでは、ということも思った。
- ◎設計の理念の部分は、色々なことを考えていて評価できる。一方、技術提案の部分が、まだしっかり検討がされていないのか、よく分からないところがある。
- ◎地元のことをよく分かっているところがプラスの評価である。それに対して技術提案されているものは十分読み取れなかったり、あるいは読み取れたとしても、その空間本当に大丈夫だろうかと疑念を抱く部分が色々あると思う。

委員長：今の話を踏まえて、参考投票を行う。1人3票を投じて欲しい。

■第3回参考投票を行い、結果は以下のとおりとなった。

得票数	整理番号	提案者数
0票	9, 36, 61	3者
1票	15, 20, 24, 50	4者
2票	11, 29, 47	3者
5票	30	1者

委員長：5票を獲得した30番については、審査委員全員が投票したので、これは最終審査に進むということで良いと思う。また、0票の9番、36番、61番は選べないかと思う。2票が入った3者を最終審査に進ませ、さらに1票の中から1つを選ぶといったやり方も考えられるが、1票と2票の差はあまり大きくないとも言える。決め方について、意見はあるか。

委員：過半数を取っていれば最終審査対象者に入れて問題ないと思うが、1票と2票という結果にはそこまでの違いはないのではないかと。

委員長：先ほどの投票で1票もしくは2票を獲得した7者を対象に、再度投票を行うこととしたい。今回は点数による重み付けをした投票とすることにし、3点を1者、2点を1者、1点を1者の計3者を選んでもらいたい。

■第4回参考投票を行い、結果は以下のとおりとなった。

整理番号	合計点	内訳
11	7点	3点：1名、2点：2名
15	2点	1点：2名
20	1点	1点：1名
24	4点	2点：1名、1点：2名
29	8点	3点：2名、2点：1名
47	8点	3点：2名、2点：1名
50	0点	

委員長：合計点8点、3点を2人から得ており、委員の過半の投票を獲得している29番、47番、また、合計点7点、3点を1人から得て、委員の過半の投票を獲得している11番は最終審査対象とすることで良いか。ここままで4者となる。

(委員了承)

委員長：それでは、29番、47番、11番は確定とする。最終審査対象者は最大5者なので、もう1者入れることもできる。合計点は少し離れるが、3点を投じた委員はいな

いものの過半の委員からの投票を得ている24番の扱いについて審議したい。24番を5番目の最終審査対象者とするに賛成の委員は挙手をお願いする。

(委員全員の挙手あり)

委員長：以上の審議を踏まえ、11番、24番、29番、30番、47番の5者を最終審査対象者として選定する。

## (2) 最終審査対象者への質問・指摘事項について

委員長：最終審査対象者に対して事前に通知する質問・指摘事項について整理をしたい。1者あたり2、3問と想定している。

■提案者別に、委員及びオブザーバーから質問・指摘事項の案を募った。

委員長：ただ今挙げた事項を、のちほど私と事務局の間で調整して、質問・指摘事項として各最終審査対象者に伝えることとする。

(委員了承)

## (3) 最終審査の進め方について

委員長：9月8日の最終審査の進め方の確認を行う。事務局から現段階で想定している進め方について説明を求める。

■事務局より、公開プレゼンテーション及びヒアリング、最終審査の進行案（タイムテーブル、会場レイアウト、模型の取り扱い、来場者アンケートの実施等）を説明。

委員長：説明について質問などがあるか。

(発言なし)

委員長：9月8日の最終審査は今確認した通りの進め方で行う。

## (最終審査のプレゼンテーションの順番を決めるくじ引きについて)

事務局：最終審査のプレゼンテーションの順番はくじにより決定するので、青木委員長にくじを引いていただきたい。

■委員長がくじを引いた結果、整理番号11番は発表順1番、整理番号24番は発表順2番、整理番号29番は発表順3番、整理番号30番は発表順4番、整理番号47番は発表順5番となった。

委員長：以上で、本日の議事を終了する。

## 3. 閉会

事務局：以上をもって、第2回（仮称）国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託に係る公募型プロポーザル審査委員会を終了する。

以上